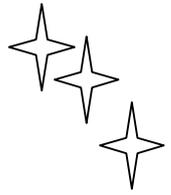
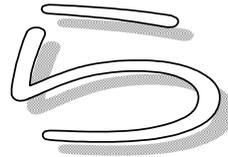
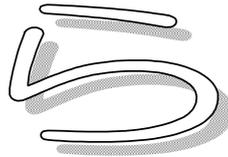
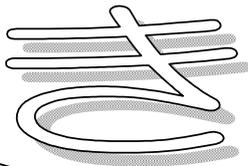
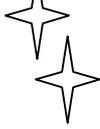


葦山南小学校
学校だより



令和5年 6月28日(水) 第3号



学校間交流

校長 植松 研吾

学校では、地域との連携を図るために授業等で地域の皆様との交流を進めてきました。例えば、「読み聞かせ」「町探検」「社会科見学」「きらら学習における見学」「葦山反射炉見学」「葦山史跡巡り」「農業体験」等、枚挙にいとまがありません。

学校間交流については山間部の学校と海岸部の学校同士で行うことが以前は多かったと記憶しておりますが(例: スキー教室&海水浴、林間学校&臨海学校)、今では近隣同士又は何かしらの縁のある学校同士で行うことが増えています。

本校の4組は、十数年前から葦山小学校の特別支援学級との交流に取り組んでおり、学校訪問による交流会や給食中にMeetによる近況報告会を行っています。

そして、本年度から2~5年生が特別支援学校との交流を始めることになりました。葦山小・中学校は昭和48年頃から東部養護学校(現在の東部特別支援学校)との交流を始めており、長い歴史があります。実は、私も両校の児童生徒として関わっていました。

本校では、開校以来初めての取組になります。2, 4年生が伊豆の国特別支援学校の2, 4年生との交流を、3, 5年生が東部特別支援学校の3, 5年生との交流を計画しております。目標は「相手校の児童と一緒に活動することを通して同学年の友達との関わりや経験の拡大を図る」「お互いを知ろうとする気持ち、相手を思いやる気持ちを育てる」「多様性を認め合うインクルーシブ教育の推進を図る」ことです。また、児童だけではなく、教員間の交流も予定しています。

さらに、6年生が奈良県五條市立五條東小学校との交流を行うことになりました。その経緯についてお伝えいたします。5月半ばに、奈良県五條市教育委員会から伊豆の国市教育委員会へ「葦山地区の小学校と五條東小学校との交流を再開したい。令和元年度まで葦山小学校と交流をしていたが、コロナ禍で中断した。ぜひ、復活させたい」という旨の電話が入り、「本年度から葦山南小学校にもお願いしたい」との依頼を受けました。五條市教育委員会が平成30年4月1日に発行した『五條学』という冊子には、「朝廷の流れをくむ清和源氏の子孫の一人が大和宇野(現在の五條市宇野町)を本拠地として大和源氏と呼ばれる武士の集団をつくっていました。宇野氏一族の一人が現在の静岡県伊豆の国市葦山山木に定住し、やがて江川と姓を改め、江戸幕府末期に活躍をします。その人が江川英龍です」と記されております。旧葦山町教育委員会発行の『葦山』にも同様のことが記されており、とても深い縁を感じました。五條市は大阪府及び和歌山県と接しており、奈良県の西側に位置する市です。遠方の学校同士なので、行き来はなかなかできないと思いますが、オンラインによる交流ならば可能です。

5月23日に五條東小学校の西浦校長先生からお電話をいただき、学校間交流を快諾して「本校から世界遺産の葦山反射炉と富士山を望むことができます」とお伝えすると、「実は、昨夏に児童3名を引率して江川邸や葦山反射炉を訪れました」という返答があり、「いつか五條市を訪問しなければ……」と思いました。その後、両校の学年主任が連絡を取り合い、6年生が本年度取り組む「景観まちづくり学習」を生かした交流を行うことになりました。今後はそれぞれの学校や市の紹介だけにとどまることなく、交流方法を模索して、よりよい交流が継続できたらよいかと思っております。

